

重要磯根資源（サザエ、アワビ）の資源管理適正化事業

金元保之・古谷尚大・佐々木 正

1. 研究目的

磯根資源の重要種であるサザエ、アワビの漁獲量は近年、減少傾向が継続し、地域によってはこれらの資源の枯渇が危ぶまれる状況にあることから、これらの資源の維持と回復を目的とした各調査を実施し、対象種や各海域の資源状態に応じた有効な資源管理方策について検討、提案する。

2. 研究方法

(1) 漁獲情報の整理

島根県漁獲管理情報処理システムより、出雲・石見・隠岐海域におけるサザエの漁獲情報を抽出し、海域毎の漁獲動向を整理した。また、素潜り漁業者数と漁獲量が多い松江市美保関町七類地区（出雲海域）をモデル地区として設定し、同地区の素潜り漁業者数名を対象に、操業野帳の記載を依頼し、操業位置を始めとしたより詳細な漁業情報を整理した。

(2) サザエの成熟期調査

サザエの近年の成熟時期を特定するため、出雲海域（松江市）、石見海域（益田市）および隠岐海域（知夫村）において買い取り調査を実施した。買い取りは2021（令和3）年4月～11月の期間のうち、概ね1～2回/月の頻度で行った。買い取りしたサザエは精密測定後、雌雄別に生殖腺指数を算出し、各海域における産卵時期の推定を行った。

(3) モデル地区における資源状況の把握

島根県漁獲管理情報処理システムより、七類地区のサザエの漁獲情報（漁獲量、水揚げ日数、採介漁業のみを対象）を抽出し、DeLury法により資源量の動向を推定した。なお、解析に使用した漁業情報は解禁（7月）から9月末のデータとした。

3. 研究結果

(1) 漁獲情報の整理

出雲・石見・隠岐海域における2000（平成12）年～2021（令和3）年の漁獲量の推移を図1に示す。各海域とも漁獲量の年変動が大きかった。特に直近では、出雲・石見海域は2019年（令和元年）以降、隠岐海域は2017年（平成29年）以降、大幅な減少傾向が続いていた。松江市美保関七類地区の操業野帳は現在、整理・解析中である。

(1) サザエの成熟期調査

出雲・石見・隠岐海域におけるサザエの雌雄別生殖

腺指数は概ね4月から徐々に増加した後、7月上旬から減少する傾向を示した。特に、7月上旬から下旬にかけての減少幅が大きいことから、島根県沿岸におけるサザエの主な産卵時期は概ね7月上旬から下旬であると推定された。

(3) モデル地区における資源状況の把握

松江市美保関七類地区における2006（平成18）年～2021（令和2）年の資源量の推移を図2に示す。資源量は卓越した2009（平成21）年以外は、20トン～70トン台の間で変動する傾向が見られ、直近の2021（令和3）年は前年と比較して約4割に減少していることから、今後の資源動向を注視する必要があると考えられた。

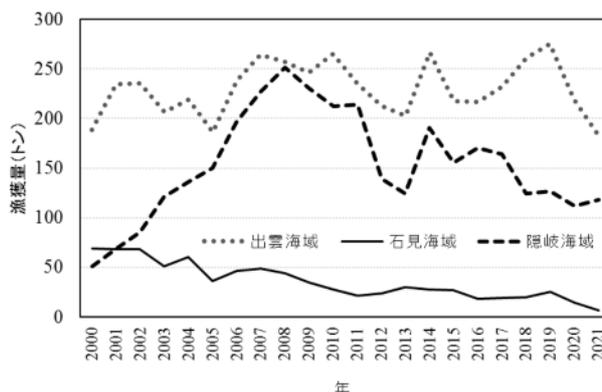


図1 出雲・石見・隠岐海域におけるサザエの漁獲動向

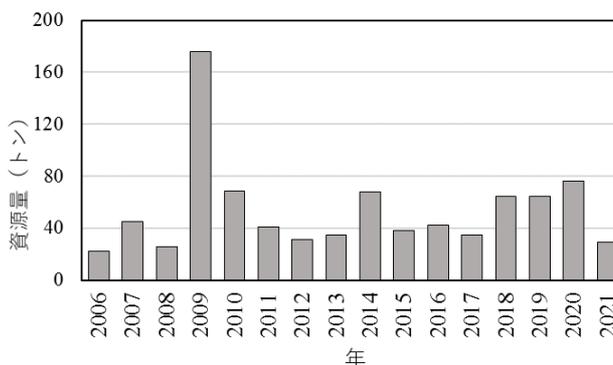


図2 松江市美保関町七類地区におけるサザエの資源動向